

# 英語科学習指導案

令和元年6月3日(月)第2校時 2年A組(LL教室)

指導者 T1: 剣持 裕行 T2: 宮崎 瞳 ALT: Nicholas Bigelow

## 授業の視点

海外派遣を見据えて、空港の入国審査という必要感のある場面を設定し、ペアで受け答えをすることは、生徒が主体的に未来形を用いた入国審査の表現を身に付けることに有効であったか。

1. 単元名 Unit2 "A Trip to the U.K."

2. 本時の学習

(1) ねらい 未来形 be going to を用いて入国審査の受け答えができるようになる。

(2) 展開

学習活動(分) ○: 留意点 点線囲: 評価 ☆: 振り返りの子供の意識

**1 "What are you going to do in Australia?"の会話ウォーミングアップを行う。(10分)**

○スライドで昨年度の海外派遣の様子を示し、会話の支援とする。

○座席の変更とローテーションで、常に新しいペアと会話できるようにする。

**2 前時までの学習内容を復習する。(15分)**

○ピクチャーカードを掲示し、要約シートの確認することで、前時の内容を想起させる。

○メインの活動に向けて、フラッシュカードで新出単語を、リポート練習で本文の会話を繰り返し練習する。

**3 めあてをつかみ、入国審査の練習をする。(10分)**

○海外派遣の際には入国審査が必須であることからめあてを提示し、振り返りシートに記入させる。

○旅行の目的や滞在期間の表現にはどのようなものがあるか確認し、板書することで、自分なりの受け答えができるように促す。

○教諭・ALTのデモンストレーションを行う。

○ワークシートを持って会話をすると下を向いてしまうので、共通の質問は板書しておき、答え方は暗記するよう伝える。

めあて 入国審査の受け答えができるようになる

**4 歩き回って友達とペアを組み、即興で入国審査の会話をする。(10分)**

○活動前にパスポートカードを配付し、パスポートを渡したりスタンプを押したりする動作も交えて入国審査ができるようにする。

○be going to を使って入国審査の受け答えが正しくできているか観察をする。

○会話活動終了後、生徒をランダムに指名し、入国審査の受け答えができるか個別確認をする。

評価: 未来表現 be going to を用いて、入国審査の受け答えができています。

新学習指導要領<観察・ワークシート(3)エ>

**5 本時のまとめ・振り返りをする。(5分)**

○振り返りシートに、本時でできるようになったこと(言語面)やわかったこと(内容面)を書かせる。

☆be going to を使って入国審査ができた。(言語面)

☆光太の入国の目的や滞在日数、滞在する場所などが読み取れた。(内容面)

